



発行日：平成 28 年 2 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆ 第 7 回海部会地域部会を開催しました！

2月4日（木曜日）に第7回海部会地域部会が西尾市役所にて開催されました。今回の地域部会では、今年度の活動成果の報告と来年度の活動方針について、意見交換を行いました。



日時：H28年2月4日（木） 15:00～17:00
場所：西尾市役所 会議棟 2F 第4会議室
参加者：20名（事務局含む）

◆ 主な会議内容

1：本日の話し合いで決まったこと



■ 活動成果報告について

- 活動成果は山部会との合同ワーキングの開催や山村担い手事例集の協働作成など、具体的な内容でわかりやすく報告します。
- 流域共通のテーマであるごみ・流木問題や総合土砂については、議論を深める活動につなげることができなかったため、来年度は具体的な活動を目指します。

■ 今後の活動方針について

- 碧南市では矢作川アダプト制度を利用して矢作川の清掃活動に取り組みされている団体があり、活動を実践されている方には懇談会に参加していただくように働きかけます。
- 海部会単独で活動するよりも、山、川部会や大学や小学校など教育機関、また関係団体と交流を深めるとともに、共通のプロジェクトを組んで、具体的な活動を実践していきます。
- 来年度の海部会ワーキングは単独開催の回数を減らしてもよいので、山、川部会との合同ワーキングを増やすなど、人と人の交流を深めることによって次のサイクルに向けた具体的な行動に移行します。
- 矢作川流域圏で活動する人々や地域の物産など山・川・海に関する情報を発信する場、流域圏以外の人たちとの交流の場所になる活動拠点を作ることを目指します。
- 『砂の駅』構想を山、川、海での合同プロジェクトと位置づけ、具体的な検討を進めます。
- 愛知県主催の『海の大感謝祭』で流域圏懇談会主体のイベントを実施します。





●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(1) 活動成果報告について

(●意見 ▶回答)

- 6年間、無事にこの会が続いているという事も成果の一つなのかもしれない。(青木)
- 石川組合長や三河港管理事務所のご協力もあって、実際に矢作ダムの砂を海に入れて、人工干潟を造成し、モニタリングをし、良好な結果が得られるというところまで、こぎ着けることができたと思っている。(鈴木)
- 今年の反省点として、流木とゴミの問題について川部会の人と話をしなけりばならなかったのだが、1回もできなかったのが、来年度は1回でも2回でもやりたい。(井上)
- 碧南市で矢作川アダプト制度を活用して活動している団体がいることを初めて知ったので、ぜひこの懇談会に入っていただきたい。(高橋)
- 石川組合長は個人的に東海大学と研究交流をされており、フィールド面でだけでなく、文化的な面も含めて実施されている点が、素晴らしい。(井上)
- 蒲郡漁場環境保全協議会が藻場づくりに取り組んでいることが山村担い手事例集の取材でわかったが、懇談会として何らかの貢献ができないかと思っている。(浅田)
- ▶ 組合では藻場を指定した場所で作っており、そこではアサリも採らないようにしている。そうすると藻はいくらでも増えてしまう。アサリの漁場を藻が侵してきているので、アサリの漁場が少なくなってきている。そういう意味で藻場はいらないと思っている。生態系の中では藻は必要であるが。(石川)
- ▶ 漁業者にとって藻場は収益にならないが、三河全体として環境をよくする(生物をふやす、多様性を維持する)という面で絶対必要である。個別の漁協に頼らずに本来藻場が生えていた箇所に、藻場を復活させる努力を何かしらの形でやっていかなければならない。(鈴木)
- 何か数値で示せるような結果があるとよい。例えばどのような交流が増えたとか、情報発信・情報共有ができたかということを示せるとわかりやすい。山部会と合同ワーキングを開催したなど事例を挙げて示せるとよい。(青木)

(2) 今後の活動方針について

- 漁業組合と先端の水源の森林組合で何か共同でプロジェクトを組めればよいと思っている。山部会では山村担い手事例集もできあがっており、これを利用して部会メンバーと第三者がコラボレーションして、何かプロジェクト的な活動を行っていきたいと思っている。(今村)
- この3か年サイクルは、3つの部会に分かれてやってきたが、これからの3か年はまとめてやる形がよい。場所は難しいが、そういう機会をもっと増やすことで、今までの2/3の部分が生きてくると思う。(高橋)
- 会議の回数は減らしてもいいと思う。連携というか、人が交流しないと物が交流しないわけで、合同部会とまではいかないけれど、合同小部会みたいな形式で、頻度を下げて実施するのが良い。(鈴木)
- 全ての部会に出させてもらっているが、まだ山の方は山だけの考え方、海は海だけの考え方があるようだが、それがまとまったら矢作川流域の上下の物流など色々な成果が出てくると思う。(高橋)
- 流域の情報を発信したり、みんなで集まって合同で矢作川流域圏懇談会のイベントをやったりできるような、活動の拠点が作られるとおもしろい。(今村)
- 山にある物を海の方が知るのもいいし、海の方が山に行って間伐を手伝うのもいいし、色々な形でコラボレーションというか、プロジェクトチームを作ったりする活動が面白いなど、個人会員から見ると感じる。(浅田)
- 山の方は木の駅プロジェクトというのがあるが、砂の駅プロジェクトとして、山から砂を持っていくと愛知県で地域通貨を渡して、流域内で使えるというふうなものもいいと思う。(今村)
- 一つのPRイベントとして、やり方を考えていく方針である。(大森)
- 川部会と活動を一緒にやらなければいけないだろう。川部会と一緒に考えたら何か道ができそうな感じがする。山部会だけでなく、川部会が動くといい。(高橋)
- 砂運びで意識が繋がる。市民活動でできたらおもしろい。(今村)
- 今後の海の大感謝祭で山、川、海の合同でイベントが実践できるとよい。(鈴木)
- 具体的な目標については、部会以外を含めて連携して何かやるという点を強調してくれてもよい。(青木)

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@iijnet.or.jp) までお送りください。